

●スポーツ文化・マネジメント学系

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
スポーツ文化・マネジメント学系	石堂 典秀 ISHIDO,NORIHIDE 教授 修士(法学)	スポーツ法学<Sport Law> スポーツ事故、プロスポーツ契約、ドーピング違反、セクハラ・パワハラ等、スポーツから生じる様々な問題や事象の多くは法やルールと密接に結びついている。国際的にはスイスのスポーツ仲裁裁判所(CAS)の判断は、オリンピックなどの国際競技に重要な影響を与えており、国際的なスポーツ法研究にも関心を有している。	博士:研 修士:研
スポーツ文化・マネジメント学系	伊藤 央二 ITO,EIJI 教授 Ph.D.(体育・レクリエーション学)	スポーツツーリズム、余暇・レジャー学<Sport Tourism, Leisure Studies> スポーツの要素を含む旅行であるスポーツツーリズムについて、観光客の心理的経験や観光地の地域再生など、さまざまな角度から検討している。また、スポーツや観光を含む余暇・レジャー活動について、社会心理学および文化心理学の観点から研究を行っている。	博士:研 修士:研
スポーツ文化・マネジメント学系	千葉 直樹 CHIBA,NAOKI 教授 博士(体育学)	スポーツ哲学、スポーツ社会学<Sport Philosophy, Sport Sociology> スポーツのグローバル化に関心をもち、外国人スポーツ選手の視点を通して、日本スポーツ文化の特質を相対化してきた。比較文化という視点を通して、日本スポーツ界に起る暴力問題、日米バスケットボール指導者のコーチング哲学、運動部活動の改革について研究している。	博士:研 修士:研
スポーツ文化・マネジメント学系	舟橋 弘晃 FUNAHASHI,HIROAKI 教授 博士(スポーツ科学)	スポーツ経済学・スポーツ政策<Sport Economics and Sport Policy> スポーツ消費者の行動分析、スポーツ政策・スポーツ投資(スタジアム・アリーナ、プロスポーツチーム、スポーツイベント、国際競技力向上施策など)のインパクト評価や社会的受容性の分析を通じて、政策決定支援を行っている。	博士:研 修士:研
スポーツ文化・マネジメント学系	吉田 毅 YOSHIDA,TAKESHI 教授 博士(体育科学)	スポーツ社会学、災害社会学<Sport Sociology, Disaster Sociology> アスリートのキャリア形成問題、具体的にはバーンアウトをはじめセカンドキャリア形成の困難の要因・背景を主に社会化論の視点から、また、地域スポーツクラブの災害復興とレジリエンスのあり方を被災地のフィールドワークを通じて検討している。	博士:研 修士:研
スポーツ文化・マネジメント学系	来田 享子 RAITA,KYOKO 教授 博士(体育学)	スポーツ史<Sport History>、スポーツとジェンダー<Sport and Gender> オリンピック・ムーブメントの歴史に焦点をあて、スポーツ組織の権力のダイナミクス、ジェンダーなどの視点から国内外の史料を検討している。また、この検討で得られた歴史的知見をベースに、より多様な人々のスポーツの権利を保障するために必要とされるスポーツ政策、社会環境、スポーツそのものの変容について研究している。	博士:研 修士:研
スポーツ文化・マネジメント学系	塚本 拓也 TSUKAMOTO,TAKUYA 准教授 博士(スポーツウエルネス学)	スポーツ経営学<Sport Management>、サステナビリティ経営<Sustainability Management> 近年のプロスポーツ経営では、経済的価値と社会的価値を同時実現する「Creating Shared Value(CSV:共通価値の創造)」という考え方が重要視されている。そのため、このような発想をクラブ経営にサステナブルに導入するための施策を検討している。特に、Jリーグクラブのスポーツを通じた社会貢献活動における社会的インパクト評価の枠組みについて研究している。	博士:講 修士:研補

●身体教育学系

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
身体教育学系	荒牧 勇 ARAMAKI, YU 教授 博士(理学)	スポーツ脳科学<Sports Neuroscience> スポーツや日常動作に関する運動・認知メカニズムについて脳科学の手法でアプローチしている。MRI脳構造・機能画像によるスポーツ競技ごとの脳の特徴やトップアスリートの脳の特徴、身体トレーニング介入による脳の変化、スポーツ時の脳波計測、経頭蓋電気刺激を用いた運動・感覚・認知の操作などが研究テーマである。	博士:研 修士:研
身体教育学系	国土 将平 KOKUDO, SHOHEI 教授 博士(体育科学)	学校保健学、発育発達学<School Health, Growth and Development> 子どもの身体の発育発達や健康的な生活習慣、メンタルヘルスなどの実態把握、年齢や経時的な変化ならびに相互作用について統計的手法を用いながら実証的な研究を進めている。またタイ、ネパール、ラオス、ミャンマーにおいて学校保健活動を通じた学校教育改善の国際教育協力ならびにその効果の検証の研究を行っている。	博士:研 修士:研
身体教育学系	中野 貴博 NAKANO, TAKAHIRO 教授 博士(体育科学)	子どもスポーツ学、発育発達学<Child Sports, Growth and Development> 子どもの運動実施が体力や生活習慣、教育、人格陶冶などに及ぼす影響について、フィールドでの実践や調査を通して示していく。また、子どもの運動発達についても検討し、適切な実践方法を提案していくことで、広く子どもにとっての運動の価値の向上を目指す。	博士:研 修士:研
身体教育学系	野田 智洋 NODA, TOMOHIRO 教授 博士(コーチング学)	コーチング学、スポーツ運動学、体操競技方法論 <Coaching Theory, Phenomenological kinematics, Sport Methodology-Gymnastics> 新しい運動技能を獲得したり未熟な技能を洗練してゆく運動学習の過程で、学習者がより効率的に目標とする運動に習熟することができる指導方法の開発をコーチング学の立場から研究してきた。特に、体操競技や器械運動における技の効果的な指導方法の開発と普及に関する研究をスポーツ運動学の立場から進めている。	博士:研 修士:研
身体教育学系	長谷川 弓子 HASEGAWA, YUMIKO 教授 博士(体育学)	スポーツ心理学、運動制御・学習、スポーツメンタルトレーニング <Sport Psychology, Motor Control and Learning, Mental Training for Athletes> スポーツ現場で生じている運動やパフォーマンス上の問題に着目し、運動制御・学習の視点から、緊張や不安といった心理状態が知覚・認知過程および運動遂行に及ぼす影響について研究を行ってきた。運動技能の習得や洗練の過程における身体運動と心理的要因の相互作用を運動学的データに基づいて検討し、指導・支援方法への応用を目指している。	博士:講 修士:研
身体教育学系	加納 裕久 KANO, HIROHISA 准教授 博士(人間発達学)	子どもスポーツ学、発育発達学、測定評価論 <Children's Sports Science, Growth and Development, Performance Measurement> 幼児期の運動発達について、神経系のコーディネーション能力に焦点をあて、その発達の特性について研究している。主に筋出力を条件に応じて調整し動作の正確性を評価するコーディネーション能力テストの開発や運動遊びがコーディネーション能力に与える効果、幼児や親の運動・生活習慣とコーディネーション能力との関係性について検討している。	博士:講 修士:研
身体教育学系	佐野 孝 SANO, TAKASHI 准教授 博士(教育学)	保健体育科教育学<Health and Physical Education> 体育授業及び保健体育授業の質の向上の観点から、運動動作の評価や上達過程の明確化、健康や安全に関する教材の分析、それらを基にした指導法の開発に関する研究を進めている。また、学習者の心理状態や体格と運動動作との関連を検討することで、より安全かつ効果的な授業環境を提案するための研究にも取り組んでいる。	博士:研補 修士:研

●スポーツ生理学系

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
スポーツ生理学系	梅村 義久 UMEMURA, YOSHIHISA 教授 博士(保健学)	運動生理学<Exercise Physiology> 運動又はトレーニングに対する身体の生理学的な適応に関する研究で、特に骨及び筋について検討している。骨に関する研究においては、骨強度を高める運動様式や運動方法及び骨の適応について研究をしている。筋については、筋・腱複合体の弾性などについて検討している。	博士:研 修士:研
スポーツ生理学系	大家 利之 OHYA, TOSHIYUKI 教授 博士(体育学)	スポーツ生理学<Sports Physiology> エリート競技選手の体力特性の解明や高強度運動パフォーマンス向上の為のトレーニング方法の開発について、エネルギー供給機構の観点からアプローチしている。その中でも特に、サッカーやバスケットボールなどのゴール型球技の選手に着目して研究を行っている。	博士:研 修士:研
スポーツ生理学系	松本 孝朗 MATSUMOTO, TAKAAKI 教授 博士(医学)	環境生理学・運動生理学<Environmental Physiology, Exercise Physiology> 環境が生体機能に及ぼす影響について研究する分野を環境生理学という。中でもヒトの暑熱適応、特に熱帯地住民の長期暑熱順化を主テーマとして取り組んできた。最近は運動・スポーツ・健康を中心とし、運動時の人の体温調節・エネルギー代謝への雨・風の影響、運動後の疲労回復法、ボクシングの減量、熱中症の予防、オリンピック・パラリンピックの暑熱対策など、幅広い研究を行っている。	博士:研 修士:研
スポーツ生理学系	渡邊 航平 WATANABE, KOHEI 教授 博士(教育学)	神経筋生理学、神経筋バイオメカニクス<Neuromuscular Physiology, Neuromuscular Biomechanics> 骨格筋の活動を制御する神経筋系を中心に、加齢、発育、運動トレーニング、疾患、食事などが、ヒトの運動機能に及ぼす影響に関する研究を進めている。	博士:研 修士:研
スポーツ生理学系	中村 和照 NAKAMURA, KAZUTERU 准教授 博士(体育科学)	スポーツ栄養学、運動生理学<Sports Nutrition, Exercise Physiology> これまでは、漸増負荷運動時の血糖値の動態を用いた競技能力の評価方法、レース時のエネルギー及び水分補給とパフォーマンスの関係について研究を行ってきた。今後は、栄養状態を反映する生理学指標を用いて、アスリートの栄養状態の課題について調査を行い、トレーニング効果を高めるための栄養摂取方法について研究を行う予定である。	博士:研補 修士:研

●スポーツ健康科学系

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
スポーツ健康科学系	紙谷 武 KAMITANI,KAMITANI 教授 博士(工学)	スポーツ医学、整形外科学(Sports Medicine, Orthopedic Surgery) スポーツ外傷・障害の予防について研究している。特に柔道に関してその競技特性を考えた予防法を模索している。またその研究から得られた知見を社会に還元できるように心掛けている。具体的には受け身を活用した転倒予防教室を行なっている。対象は高齢者だけではなく、子どもも含んで展開している。	博士:講 修士:研補
スポーツ健康科学系	葛原 憲治 KUZUHARA,KENJI 教授 博士(教育)	ストレングス&コンディショニング(Strength & Conditioning) アスリートの競技パフォーマンスの向上や傷害予防のためのトレーニング、競技特性に応じたレジスタンストレーニング、機能的なウォーミングアップ、疲労回復のためのリカバリーやコンディショニング、ピリオダイゼーションの概念を考慮したトレーニング計画などを探求し、スポーツ現場の問題解決につながる研究に取り組む。	博士:講 修士:研補
スポーツ健康科学系	倉持 梨恵子 KURAMOCHI,RIEKO 教授 博士(人間科学)	アスレティック・トレーニング(Athletic Training) アスリートは常に怪我の危険と隣り合わせである。アスレティック・トレーニングはアスリートが抱えるスポーツ外傷・障害の予防を目標とし、その評価、応急処置、アスレティック・リハビリテーション、コンディショニングを包括的に扱う。特に運動器のスポーツ外傷・障害の要因を探求し、怪我をしにくい身体づくりのための方策を模索する。	博士:研 修士:研
スポーツ健康科学系	重松 良祐 SHIGEMATSU,RYOSUKE 教授 博士(体育科学)	健康づくり、普及研究(Health Promotion, Dissemination Research) 健康増進、身体活動・運動の効果検証、スポーツ傷害の予防、運動ボランティアの養成・支援、研究知見の国内外への普及法の開発などに関心がある。	博士:研 修士:研
スポーツ健康科学系	篠原 純司 SHINOHARA,JUNJI 教授 博士(運動科学)	アスレティックトレーニング、運動科学(Athletic Training, Exercise Science) 下肢のスポーツ障害・外傷の予防、競技復帰のためのアスレティックリハビリテーション・リコンディショニングを研究領域としている。特に足関節捻挫後に発症する慢性足関節不安定症の病態とその改善方法についての研究を重ねている。	博士:研 修士:研
スポーツ健康科学系	清水 卓也 SHIMIZU,TAKUYA 教授 博士(医学)	スポーツ医学(Sports Medicine) 近年、スポーツ障害は、core stabilization を基盤とする運動連鎖の破綻により生じるという考え方が提示されている。運動連鎖における四肢の動作パターンと、スポーツ障害の関係を解析することを、主な研究テーマとしている。ほかに、スポーツ障害の発生状況から、発生要因を明らかにすることもテーマとしている。	博士:研 修士:研
スポーツ健康科学系	福崎 千穂 FUKUSAKI,CHIHO 教授 博士(教育学)	健康科学、運動生理学(Health Sciences, Exercise Physiology) 運動実践は、健康や体力の維持増進を促す重要な手段である。しかしながら、疾患患者や高齢による低体力者では、運動実践そのものが難しくなることがある。トレーニングに関する基礎研究や運動指導実践を通じて、彼らでも実践できる「より安全で効果的な運動方法の開発」を目指す。	博士:研 修士:研
スポーツ健康科学系	梅村 朋弘 UMEMURA,TOMOHIRO 准教授 博士(医学)	公衆衛生学(Public Health)、労働衛生学(Occupational Health)、国際保健学(Global Health) 有形無形の様々な環境要因と健康の関わりにフォーカスし、身の回りの健康問題から発展途上国の生活環境・習慣に関する問題、さらに人生の大半を占める労働に起因する健康問題まで幅広いテーマを扱う。こうした問題の原因を究明し、改善につながる対策を考える。	博士:講 修士:研補
スポーツ健康科学系	辻本 健彦 TSUJIMOTO,TAKEHIKO 准教授 博士(スポーツ医学)	運動疫学、ヘルスプロモーション、行動科学(Exercise Epidemiology, Health Promotion, Behavioral Science) 我が国の重要課題である健康づくりにおいて、身体活動や運動・スポーツの面から解決策を見出すことをゴールとし、身体活動の評価、身体活動と関連する要因の探索、行動変容の仕組みや仕掛けづくり、身体活動の新たな効果などの側面からアプローチしている。	博士:講 修士:研

● 応用スポーツ科学系

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
応用スポーツ科学系	田内 健二 TAUCHI, KENJI 教授 博士(体育科学)	スポーツバイオメカニクス・トレーニング科学<Sport Biomechanics, Training Science> バイオメカニクス分野の動作分析、あるいは生理学分野の体力の測定評価を中心とした研究手法を用いて、身体の仕組み、あるいは運動の仕組みを理解し、どのようにすれば効果的、効率的にパフォーマンス(特に、競技パフォーマンス)を向上させられるかを学ぶ。最終的には、理論に裏付けられたトレーニング手段の構築を目指す。	博士:研 修士:研
応用スポーツ科学系	高橋 繁浩 TAKAHASHI, SHIGEHIRO 教授 博士(体育学)	コーチング論研究、水泳<Coaching Science, Swimming> コーチングとは、選手が目標を達成するために、選手自身が主体的に働きかけようとする能力を対話などで共に考え、よき方向に導くことである。コーチングには、トレーニングやコンディショニングに関する基礎知識も必要であることから、栄養、休養、リラクゼーション、トレーニングとしての身体活動などを含む、総合的で短期的な働きかけについて、実際の競技の場における事例や研究報告を提示しながら、授業を展開し理解を深める。	博士:研 修士:研
応用スポーツ科学系	眞鍋 芳明 MANABE, YOSHIAKI 教授 博士(体育科学)	トレーニング科学、陸上競技、コーチング学<Training Science, Athletics, Coaching Theory> ヒトが行うスポーツ活動を定量的に捉え、スポーツ技術を力学的に評価したり、新たな技術およびトレーニング方法考案の支援につなげたりすることが応用スポーツ科学分野における研究目標である。スポーツという複合的実践領域において行われる研究は、様々な要因が極めて複雑に介在するため、その研究成果を直接的にトレーニング現場に利用することは困難である。しかしながら、トレーニング現場が抱える問題点や課題を単純化し、その糸口を掴むことがトレーニング科学を専攻する我々の責務である。	博士:研 修士:研
応用スポーツ科学系	吉武 康栄 YOSHITAKE, YASUhide 教授 博士(人間・環境学)	スポーツバイオメカニクス、運動制御、神経・筋生理学(Sports Biomechanics, Motor Control, Neuromuscular physiology) 「同じ筋力でも、なぜ上手い人は速く・正確に動けるのか?」—その答えを、バイオメカニクスと神経・筋制御の両面から探る。関節運動や床反力などの力学的特徴(動作分析)を入口に、脳や神経および筋がつくる制御システムが、練習や疲労、環境変化の中でどのように運動を最適化するのかを研究する。動作計測・映像解析、床反力計測、筋電図、運動学習課題等を統合し、ジャンプやダッシュ、切り返し、技能動作の「うまさ/速さ/再現性」を制御戦略として定量化する。最終的には、パフォーマンス向上と傷害予防を両立する介入(トレーニング/フィードバック/評価法)を開発する。	博士:研 修士:研
応用スポーツ科学系	藤林 献明 FUJIBAYASHI, NOBUAKI 准教授 博士(コーチング学)	一般コーチング学、パフォーマンス分析<Coaching Science, Performance Measurement> スポーツのコーチングでは、①種目特有の課題に対するコーチングと②すべての種目に共通する一般的なコーチングに関する知識を有しており、トレーニング現場へと応用することが求められます。前者については、主にパフォーマンスをどのように客観視して課題を抽出するか?抽出した課題をどのような手段で解決するのか?といった方法論。後者については、コーチや選手の行動論の革新を目指し、バイオメカニクスやトレーニングの実証研究、コーチング・トレーニングの省察的研究などの手法を組み合わせた研究を実施している。	博士:研 修士:研
応用スポーツ科学系	船木 浩斗 FUNAKI, HIROTO 准教授 博士(コーチング学)	球技、ハンドボール、コーチング学<Ball Game, Handball, Coaching Science> 球技における、選手やチームの競技力を合理的に高めるコーチングに役立つ知見を得るための研究を進める。具体的には、①インタビュー調査などの質的研究により、ある球技種目におけるわざの構造の解明や、それを利用した有効な指導内容の検討などを行う。また、②記述的ゲームパフォーマンス分析の手法を用いて、選手やチームの競技力評価、戦術の有効性の検証、ある球技種目のゲーム構造解明などを行う。	博士:講 修士:研補
応用スポーツ科学系	村瀬 直樹 MURASE, NAOKI 講師 博士(体育学)	剣道、コーチング学、スポーツバイオメカニクス<Kendo, Coaching, Sport Biomechanics> 剣道はオリンピック競技ではないものの、国内では勿論、国際的にも普及している。その一方で、国際的な学術研究の数が少なく、科学的に裏付けされた技術指導法やトレーニング指導法が確立されていない。バイオメカニクス的研究やトレーニングの実践研究を通して、剣道競技者の競技力向上の為に必要な情報を蓄積し、これらの問題を解決することを目指す。	博士:講 修士:研補

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

博士:研補…博士後期課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:研……修士課程研究指導教員

修士:研補…修士課程研究指導補助教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員